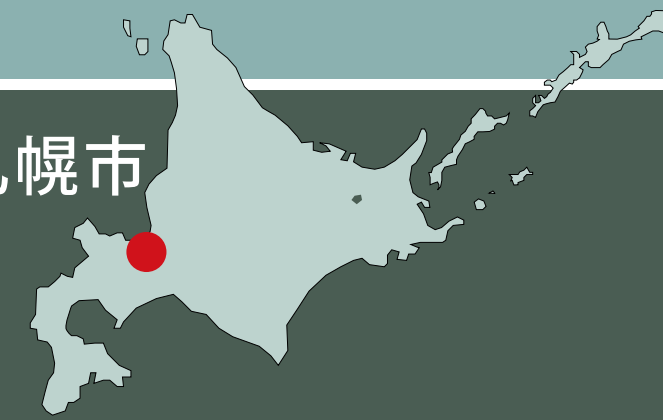


真駒内公園（札幌市）



園内はいつも歩く人走る人が絶えない

開拓時代の牧場風景が残る国内初の冬季五輪開催公園

真駒内公園は、開拓時代は広大な種畜場の放牧地・採草地であり、戦後は進駐軍、そして道立のゴルフ場であった。1995（昭和40）年、知事の一大自然公園化表明後に冬季五輪の会場と決まり、屋外・屋内競技場が急ピッチで建設された。主会場となったオリンピックは大成功し、当公園は五輪の聖地としてスタートした。

その後は、豊平川さけ科学館以外には施設を設けず、広い芝生と樹林に園路が張り巡らされた空間では、健康志向の高まりの中で、散策やハイキング、ジョギング、歩くスキーなどが、幅広い層の市民によって行われている。園内にはカタクリ自生地もあって育成活動が行われ、春には訪れる人を楽しませている。

国内初の冬季五輪開催地として記念価値が高く、かつての種畜場の面影が残る広大なオープンスペースが、大都市の中に残されている価値も大きい。

概要

名称	真駒内公園
所在地	札幌市
管理者	北海道
規模	84.7ha
種別等	都市公園（広域公園）
計画決定	都市計画公園告示 1966（昭和41）年8月
供用開始	1975（昭和50）年8月



公園のシンボルツリーとされる樹齢300年のカシワ



広い園内には二つの競技場とサケ科学館以外に施設がない